2016.6.16
vol.49

シネマ・ド・りぶらの
コラム・ド・シネマ

映画を読む

本日の上映作品

明日へのチケット

6 月 16 日（木）
① 10:30 ～ 12:20
② 14:00 ～ 15:50

3 人の高名な監督による物語を 1 つの感動作にまとめあげた！ ローマ行きの特急列車に乗りこんだ初老の大学教授、目的なく日々を過ごす若者、待望のサッカーの試合を見に行く少年たち。それぞれの愛、不安、希望を胸に新しい未来へ旅立っていく。＜ Amazon ＞

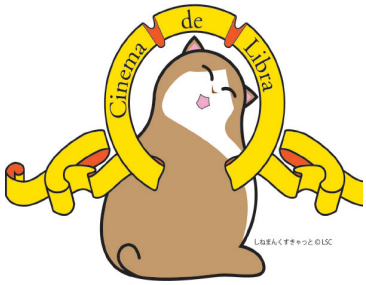
原題：TICKETS
監督：エルマンノ・オルミ
　　アッバス・キアロスタミ 、ケン・ローチ
出演：カルロ・デッレ・ピアーネ
　　ヴァレリア・ブルーニ・テデスキ
　　シルヴァーナ・ドゥ・サンティス
製作：2005 年イタリア／イギリス　カラー
上映時間：110 分

前回上映『椿姫』の感想

- マルグリットの真実な愛に一途につらぬくところにとても感動。バックのピアノがとてもすてきに心に響きました。
- 人は自分に合っているところで生きることが良いのです。貴族と言われている人は金のためだけに生きている。椿姫は美しい。
- 日本人では書けない台本だと思いました。
- 昔、本で読んだことがあり、とても懐かしかったです。
- ヴェルディの椿姫のオペラを聴いていたのでとても良かった。
- 自分の最期をあんなシーンで迎えることができたらと思いました。
- 彼女の生き方は幸せでしょうか？結果がすべてかなぁ？
- 懐かしい時間と過去の夢と感動とありがとう。

サロン・ド・シネマ

6 月～ 9 月はホワイエが大変暑くなるため、サロンはお休みさせていただきます。



映画を読む
『 明日へのチケット 』

三人の名匠のコラボレーション　K.M.

今回の上映作品は、カンヌ映画祭パルムドール受賞経験のある三人の名匠が、「舞台はインスブルックからローマに向かう国際列車内」「ストーリーに一枚の“チケット”を絡ませる」「登場人物をクロスオーバーさせる」という前提で、夫々に考えた三つの物語を持ち寄り、共同で一本の作品に織り上げたという大変ユニークな作品です。日本公開は 2006 年。

邦題やポスターの印象からは、若者が主人公の明るい青春ドラマの感じがしますが、実はとても味わい深い人間模様を描いた「これぞ大人の見る映画の見本！」と言える作品です。「チケット」という共通のキーワードを持つ三つの物語夫々に異なる味わいがあり、しかも流れるように次の物語に移ってゆく構成が素晴らしく、「一粒で三度おいしい映画」という賛辞は必ずしもオーバーではありません。印象に残ったシーンを拾い上げてみます。

◆一枚目のチケット

仕事を終えオーストリアからローマに帰ろうとしている大学教授の物語。

帰りの飛行機がテロ対策で飛ばなくなり当惑する教授に、仕事中に世話になった訪問先の美しい秘書が、列車のチケットを手配して駅まで見送りに来てくれる。親切にしてくれた彼女に淡い気持ちを抱き、後ろ髪を引かれる思いで列車に乗る教授。車中、夢の中を漂うような妄想に耽る教授。老境に近づく男の女性へのほのかな慕情は、瑞々しくもあり、哀しくもあり、しみじみと心に響きました。

車内の母と幼子に突然降りかかったミルク騒動で妄想から覚めた教授のとった優しい思いやりの行動。それを見つめる乗客の視線、そしてそれまで非情・冷淡に見えたテロ警備の士官がとった、行動に逡巡する教授の背中を押すかの意外な行動など、心温まるすばらしいシーンでした。

◆二枚目のチケット

亡夫の一周忌に向かう初老の将軍未亡人と彼女の世話をする青年の物語。

イタリアの小さな町から乗車して来た未亡人は傲慢この上なく、まるで使用人のように連れ歩いている青年にわがままを言い放題。やがては他の男性客とチケットの座席指定を巡るトラブルを起こしたりして、遂には、兵役義務として我慢して未亡人に仕えてきた青年にも見放され、この未亡人は一人で旅を続ける羽目になるというシニカルな物語です。

感情移入しにくかったのですが、一人寂しげに車窓を眺める彼女の横顔と、走り去っていく列車を呆然と見送る姿が、実は愛情に飢えているのに、高圧的な態度でしか人に対することのできぬ彼女の人生の痛みを物語っているような気がして、印象に残りました。

◆三枚目のチケット

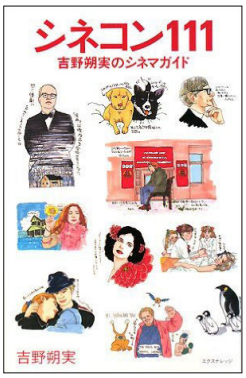
ローマでのチャレンジリーグ観戦に向かうセルティック・ファン 3 人組の物語。

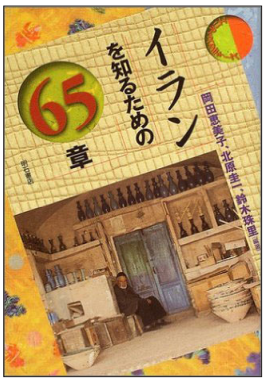
３人集まると怖いモノなしという感じで、隣席のイタリアの女の子たちにナンパを試みたり、食堂で知り合ったアルバニアからの移民の少年に観戦チケットを見せびらかして自慢したり、如何にもサッカーのサポーターらしい旅を楽しんでいた三人組。しかし、給料を積み立てて手に入れた列車のチケットの一枚が紛失するという事態が発生。やがてその事態の背景がわかるが、その背景を解決しようとすると、自分たちの楽しみも、もしかしたら職さえも失うことになるかも知れない。そんな背景を知らなければ、楽しい休日が待っていたのに、知ってしまったために苦悩が訪れる。

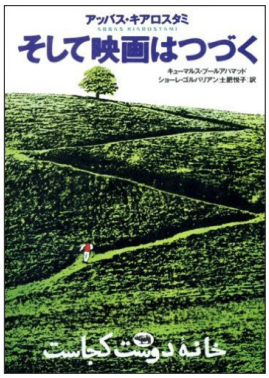
「のっぴきならない事態」を提示して「その時、あなたならどうする？」と問い詰めていくケン・ローチ監督らしい展開で、“移民／難民”問題に切り込むこともできるのだが、今作ではセルティックの試合相手チームサポーターの応援という想定外の手段で、明るいハッピーエンドに導いたケン・ローチ監督のバランス感覚に感心しました。

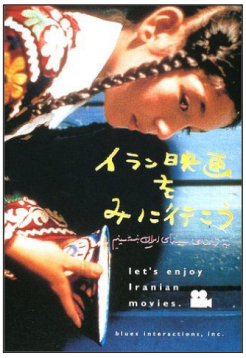
ちなみにこの作品が製作された 2005 年前後と言えば中村俊輔がセルティックで活躍していた時代で、何となくこの物語に親しみを覚えました。三人組が着ていたセルティックの緑の横縞のユニフォームは、現在でもインターネットで簡単に購入できます。

『シネコン 111』吉野朔実のシネマガイド	吉野 朔実／著	エクスナレッジ	778.2
『人生を豊かにするための 50 の言葉』 名作映画が教えてくれる最高の人生の送り方	田中 雄二／著	近代映画社	778.0
『映画を観ながらあれこれ思う』	西村 玲子／著	文化出版局	778.0
『イランを知るための 65 章』	岡田 恵美子／編著	明石書店	302.2
『そして映画はつづく』	アッバス・キアロスタミ／著	晶文社	778.2
『イラン人は神の国イランをどう考えているか』	レイラ・アーザム・ザンギャネー／編	草思社	302.2
『イラン映画をみに行こう』		ブルース・インターアクションズ	778.2
『映画でわかるイギリス文化入門』	板倉 厳一郎／著	松柏社	778.2
『これは映画だ !』	藤原 帰一／著	朝日新聞出版	778.2
『イタリア映画史入門』1905-2003	ジャン・ピエロ・ブルネッタ／著	鳥影社	778.2
『イタリア映画を読む』 リアリズムとロマネスクの饗宴	柳沢 一博／著	フイルムアート社	778.2
『サッカーの情念 (パッション) 』 サポーターとフーリガン	パトリック・ミニョン／著	社会評論社	783.4









上映予定（毎回木曜日）

第 50 回　8 月　4 日　『シェーン』
第 51 回　9 月 15 日　『スプレンドール』
第 52 回 10 月 27 日　『マダム・イン・ニューヨーク』
第 53 回 12 月 15 日　『素晴らしき哉、人生』
第 54 回　1 月 19 日　『ジェニイの家』
第 55 回　2 月 16 日　『会議は踊る』

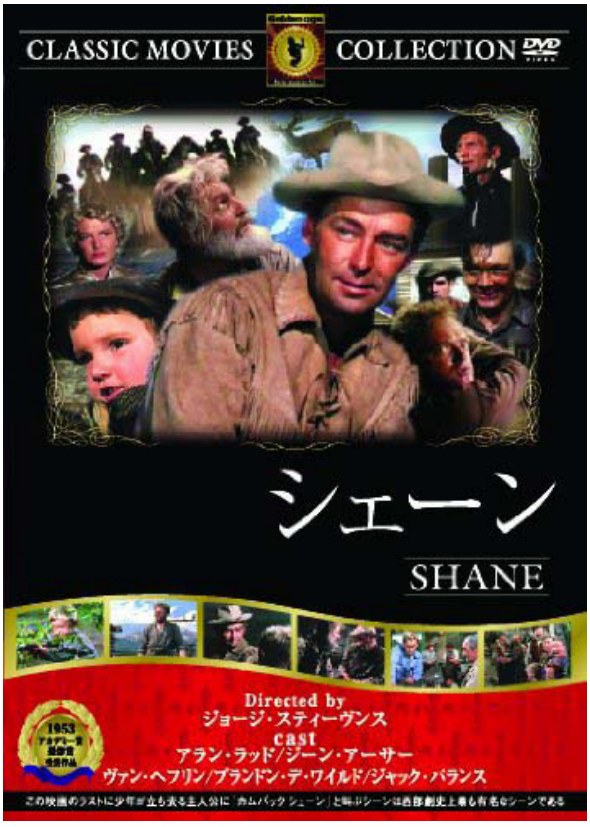
『シェーン』と『マダム・イン・ニューヨーク』は図書館では所蔵しておりませんが、上映作品の選択肢を広げるため、劇場上映用の DVD をレンタルします。上映時には関連の図書の紹介をしますので、ご利用下さい。『マダム・イン・ニューヨーク』は、男女共同参画課との共催となります。

※ 上映作品は変更になる場合があります。
※ 第 3 木曜日に限りませんのでご注意下さい。

次回上映会のご案内

「シネマ・ド・りぶら」映画上映会（第 50 回）

シェーン



西部劇史上、十指に数える事に異論はないであろう傑作。縁あって開拓移民のスターレット一家に厄介となる、旅人シェーン。折しも、この地では開拓移民と牧畜業者の間で土地をめぐる諍いが起こっていた。やがて、スターレット一家にもその騒動が飛び火してきた時、世話を受けていたシェーンは、彼らの間に割って入っていく……。＜ allcinema ＞

原題：SHANE
監督：ジョージ・スティーヴンス
出演：アラン・ラッド、ヴァン・ヘフリン、
　　ジーン・アーサー
製作：1953 年アメリカ　　上映時間：118 分

『シェーン』テーマ展示

◆ 7 月 28 日（木）～ 8 月 9 日（火）
◆ 場所：ポピュラーライブラリー

★日　時　**8 月 4 日（木）**

① **10:30 ～ 12:30**　開場：10:00

② **14:00 ～ 16:00**　開場：13:30

託児：500 円
（各回 5 名まで）
申込みは、
1 週間前までに。

★場　所　りぶらホール

★定　員　各回 280 人（入場無料・全席自由）

★主　催　岡崎市立中央図書館
　　りぶらサポータークラブ

★問合せ　TEL：23-3114　mail：info@libra-sc.jp